

1. テーマ 【認知方略】から学力向上を試みる！

—【教えて考えさせる授業】の実践研究を通じた【授業改革】（算数科編）

2. テーマ設定の理由

学校経営上の課題として、児童の実態から次の4点を挙げている。

- 1 学習に取り組む姿勢や問題解決への主体性に課題
- 2 学力テストの結果から基礎学力の定着が課題
- 3 学校評価の結果からも基本的な生活習慣の定着を家庭・地域との連携が課題
- 4 指導上共通理解し、配慮を要する児童への指導法が課題

これらの課題に対する対応策として、まず、授業を通しての学力向上・児童の学習意欲・知的好奇心を掘り起こしたいと考え、“認知方略を活かした授業作り —学習指導— “

『学ぶ意欲とスキルを育てる研究を通して、授業改善を図る』研究を通して、学力向上を図る！

学力向上等を目標とする際に、常に問題になるのが学習意欲の低下である。本校でも特徴的に見られる学習意欲、目標設定力・知的好奇心の喚起が課題となっている。この課題を解決していくことが授業の質を高め学力向上につながると考える。

授業での「・・・がわからない。」という学習者や「どこがわからないかわからない。」と言った学習者に、“自己診断”「どこが/何がわからないのか」を表現させること、最終的に「なぜ解けなかったのか」という教訓を引き出すことを促すことをめざす。

これらのステップは、東京大学市川伸一教授（認知心理学）の学習理論を基に『認知カウンセリング』の手法を授業改善に活かし、自己評価の効果的な確立をめざすことによって、学習者の自立を促し、授業改善・指導方法の改善に寄与できたらと考えている。

市川伸一教授の最新刊の中に「学ぶ意欲とスキルを育てる」がある。私達は、大切なのは、『何を教え、何を、十分時間を保証して考えさせるか。』であり、児童の実態に添って分かる授業作りを実現化していくことを願い、授業の改善を図りたいと考えている。

認知心理学からのアプローチによって、一人一人の児童が、学習に関する自分の課題を表現し、教師が課題克服への方法を指導できるならば、児童は学習への達成感を持ち、知的好奇心を高め学力向上につながるものと期待し、これらの克服していく過程を討議し、蓄積していくことが重要な授業改善の研究になると考えている。

学校経営ビジョン実現事業実施計画書より

3. 研修・研究のねらい

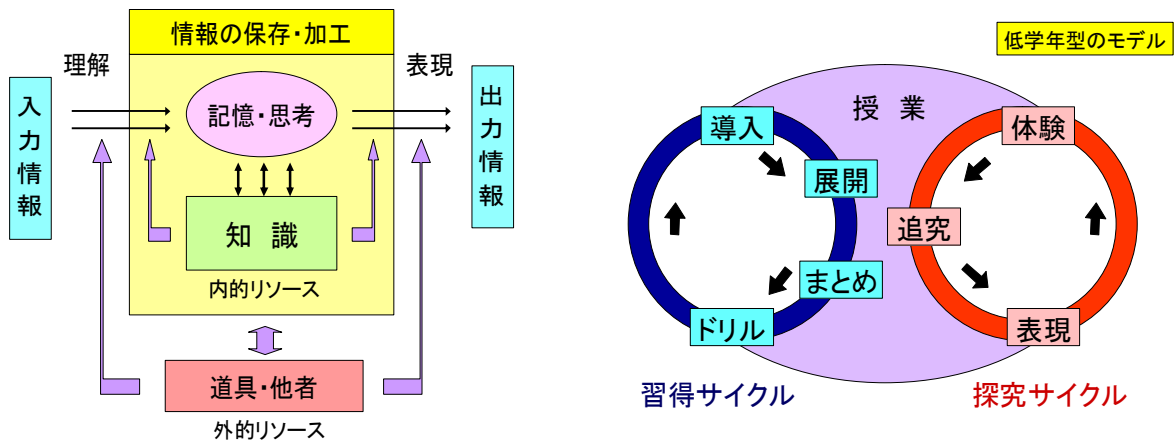
- (1) 児童に算数・数学の身につけたい力に気づかせ、習得させていく為の指導方法を探る。
  - ① 『教えて考えさせる授業』を追究することで、教材研究と授業改善
  - ② 『学習相談』の充実を通して、個に対応した指導と自律した学習方法の指導
- (2) 児童への指導研究を通して、教師の指導力向上をめざす。

4-1 研修・研究の重点内容

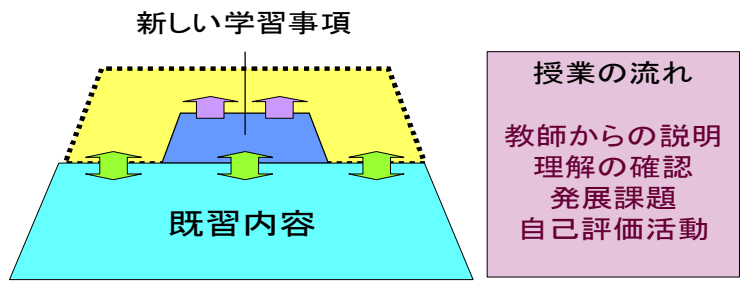
- (1) 算数科の教材研究・授業研究を通して、『教えて、考えさせる授業』の追究
  - ・ 『何を教え』『何を考えさせるか』を整理していく。→ 各種の形態の研究会で
  - ・ 個の『わからない』から集団の授業を展開する。
- (2) 担当者等による『学習相談』を通して、児童の『わからない』を追究していく。
  - ・ 『わからない』をゆっくり紐解くことで、学習相談者の『学習の自律』を促す。

研修・研究の重点内容		
	児 童	教 師
1	・スキル(学習スキル)の習得	・何を教え、何を考えるかの教材研究
2	・考える手順を記録する→ノートの充実	・今自分のいる位置・何をすべきかの意識化
3	・表現力を磨く	・協同学習の充実 ⇔ 表現力を育てる
4	・自己評価力を身につける	・自己評価力 ⇔ 学習相談の充実
5	・家庭学習の充実	・学習環境の整備

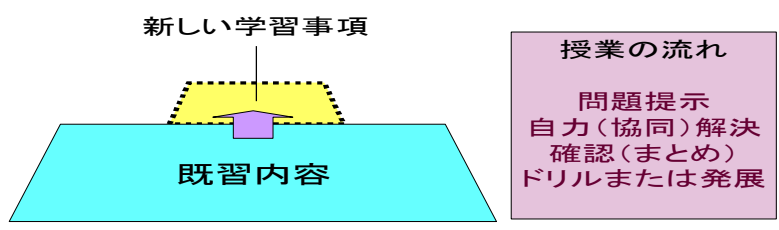
『学ぶ意欲とスキルを育てる』（東京大学大学院教育学研究科教授：市川伸一著）



教えて考えさせる授業



教えずに考えさせる授業

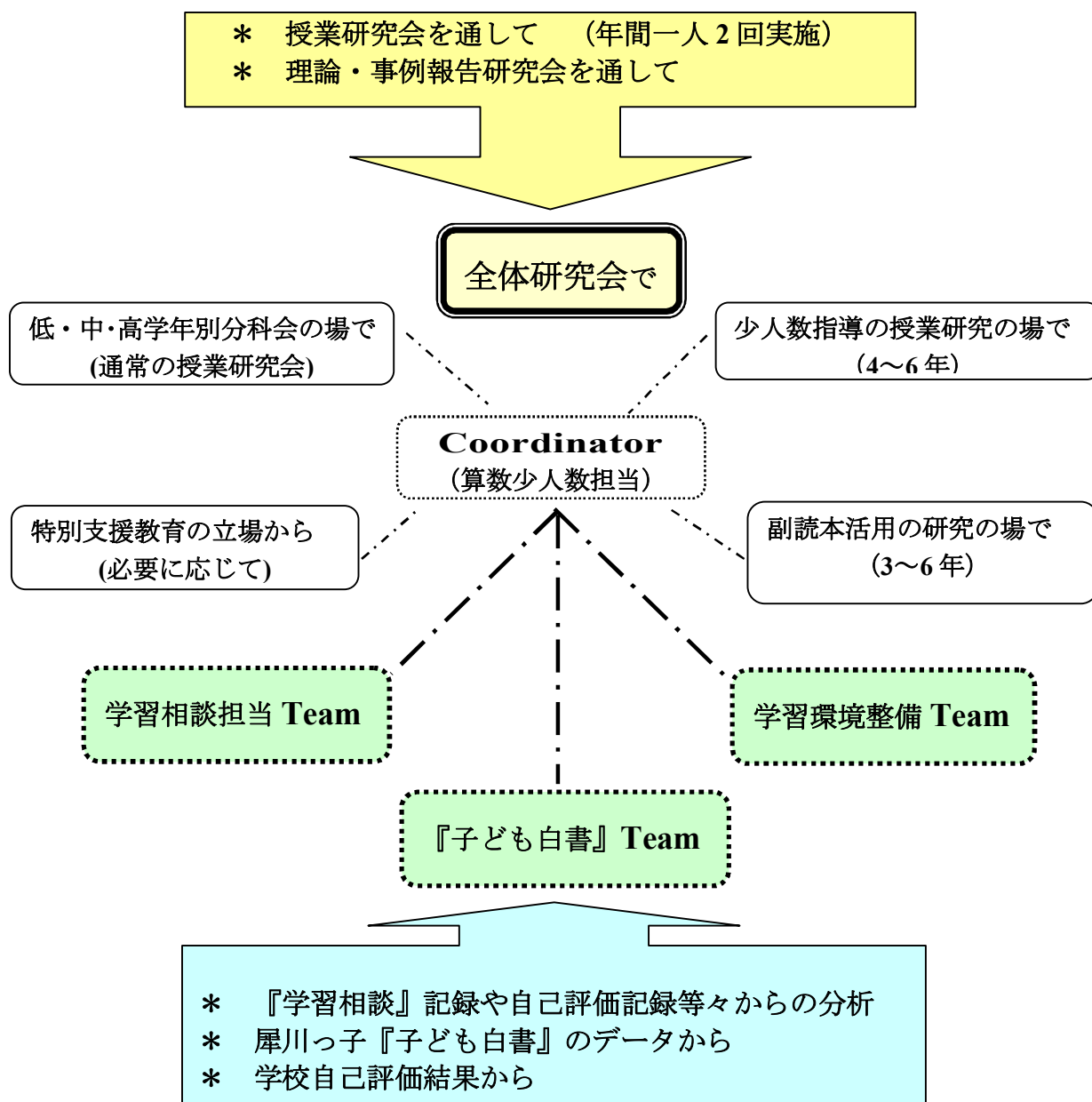


4-2 研修・研究の重点内容 (2サイクルとの関連から)



## 5. 研修・研究の進め方と方法

### (1) 研修・研究の場



#### 学習環境整備 Team

問題解決学習における『リソース』となりうる『知識』を提供する為の環境作り

#### 『子ども白書』 Team

犀川っ子の実態把握に努め、そのデータをまとめる。自己評価の観点も加える。

- <内容>
- ・ 学習成果 ex 各学年で習得してほしい内容についての評価実績
  - ・ 学習を支える生活習慣や生活態度
  - ・ 学習に対する意識・学校生活に対する意識調査

#### 学習相談担当 Team

\* 以上の Team は、必要に応じて構成し、協働作業として提案・実施したい。

## 6. 『教えて **考えさせる** 授業』 テーマそのⅠ

### (1) 『教えて **考えさせる** 授業』とは

新しく学習する内容（基本概念や基本的な例題）は教師からの説明によって教示する。その上で、グループ協議の中で、一人一人の理解の確認を行う。さらに、その知識をもとに発展的な課題による問題解決学習を学習集団で行うことにより、より深い理解を確かなものにする事ができる。

また、その流れをノートに記録することで、考える過程を意識し、解決方略を身につけ、まだよく分かっていないところを次時につなぐものとする事ができる。 → 仮説検証

← 習得サイクル型の一般的な授業に対する現実的な授業設計の原理として  
時間の制約と子どもの学力差・個人差があることを前提として、  
できるだけ多くの子どもの基礎学力と学習意欲を育てることを目標として。

何か新しいことが『わかった』とき

何かできないことが『できるようになった』とき

子どもが素直に『わからない』と言えること

『わからない』時にそれを乗り越えられる手立て

やる気

充実感・達成感

### (2) 『学習スキルの改善をめざした 授業』とは

学習スキルとは

→ 学習を進めるためのさまざまな技能（勉強方法）

- ① ノートのとり方
- ② 教科書の使い方
- ③ 記憶の仕方

\* 授業で大切にしたいこと

- ① 間違えたら『しめた』と思う
- ② 丸暗記より理解を重視  
→ 忘れにくいし応用できる
- ③ 結果だけでなく途中のやり方、  
考え方が大切
- ④ 自分の勉強のしかたを工夫する

具体的な学習活動

- ① 教科書を読むとき、  
言葉の説明と具体例を見る
  - ② なぜ間違えたかを考えてメモしておく
  - ③ 間違えたところは目立つように  
しておいて、またやり直す
- こうして自分の知識の改善を図る

(3) 授業の流れ (P88)

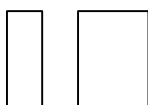
① 教師の説明  
学習相談担当 Team

- ・ 教科書の単元の始めの説明の部分
- ・ 例題としてすでに教科書に答えが書いてあるような部分
- ・ 積極的に教科書を使う

説明を理解しようとして、**考える!**

② 理解の確認

『ペタリン』の活用  
『わからない』ところに付箋を貼る



『わかった』『もう納得がいった』  
『ペタリン』をはずす

概念や解法手続きの説明で、**考える!**

『わかる』  
『人にきちんと説明できるかどうか』

『ペタリン』がはがれていく . . . . . 授業の目的

③ 発展課題  
学習相談担当

教材の本質(単元の目標)に迫る発展課題を与える  
・ 教科書にない課題であること ・ 教材の本質に迫ること

発展的な課題を解決することで、**考える!**

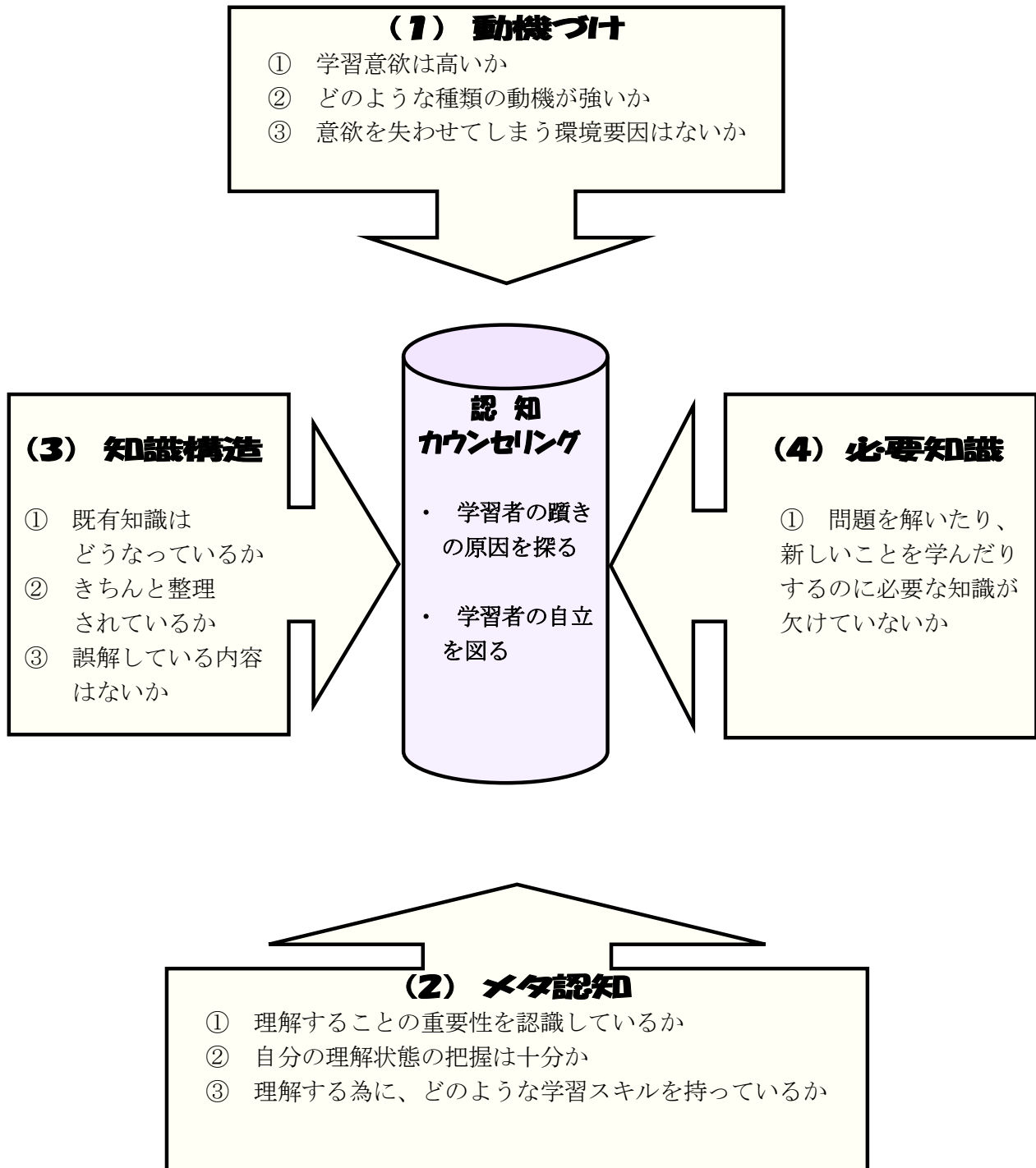
④ 自己評価  
学習相談担当

・ 今日わかったことは何か  
・ まだよくわからないことは何か  
・ 先生に質問したいことは何か

自分の理解状態を診断し表現することで、**考える!**

## 7. 『 学習相談 』 テーマそのⅡ

### (1) 認知カウンセリングの4つの側面から



この4つの視点から、学習相談者にカウンセリングを行い、『わからない』子の『なぜわからないか』『どこがわからないか』『どこがわからないかわからない』をほぐしていく。

(4) <学習相談の実施方法>

<b>いつ</b>	・ 月に2回実施 (放課後)
<b>どこで</b>	・ 少人数教室
<b>だれが</b>	・ 少人数担当教員が中心になって行う
<b>どのように</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月ごとに相談したい子どもを募集する。 (相談したい内容を『学習相談カード』に書いて申し込む)</li> <li>・ 担任より相談児童の情報を得る</li> <li>・ 相談実施後、子どもが『学習のふりかえり』を書く</li> <li>・ 担当教員は『学習相談個人カード』を書く</li> <li>・ 指導方法改善のために、ケースカンファレンスを学期に1回は行うようにする。</li> <li>・ できるだけ同じ教員が担当し、継続して指導する。</li> </ul>

### 学習相談による指導のポイント

- \* 失敗から学び、生かそうとする態度や気持ちを持たせる
- \* 結果だけを重視するのではなく、思考過程を重視する姿勢を育てる
- \* 単にたくさんの問題を解かせるのではなく、丁寧に指導を行い、適切な学習方略を身につけさせる
- \* 学習内容をただ丸暗記させるのではなく、意味理解を伴ったものにさせる。

#### 教科指導(学力向上)についての基本的な考え方

学力向上を本年度の重要事項としていることから、P(計画)―D(実施)―C(点検・評価)を繰り返すことで、具体的な成果を目指す

- ① 学力観の統一 「生きる力」からの「確かな学力」といった広義のものを前提としながら、「基礎学力」に限定することで、明確な視点を持つ。
- ② 「基礎学力」の評価の視点として、
  - ・ 授業研究を通して …… 児童の姿から  
発言・ノート・なども含む
  - ・ 学力調査を通して …… 評価点から
  - ・ 質問紙(アンケート)を通して …… アンケートから
- ③ スキルとしてのレベルアップ
- ④ 学習意欲・知的好奇心を高める  
→ 学ぶ意欲とスキルを育てる研究を通しての授業改善
- ⑤ 認知心理学からの学習方法の指導
- ⑥ 学習相談室設置 → 認知カウンセリング
- ⑦ 家庭学習の充実
- ⑧ 基本的な生活習慣確立

